



ゆらがわ

舞鶴市立由良川小学校

学校だより 11月号

〒624-0955 舞鶴市字丸田74番地

TEL : 0773 - 82 - 0013

令和4年10月31日発行

「彩り(いろどり)を大切に！」～自分の色はどんな色？～



秋も深まり紅葉の季節になります。由良川小学校ではこれからいちょうの葉が美しく黄色に変わっていくように各地の山々の木が美しく様々な色で私たちを楽しませてくれます。新緑の緑も見ごたえがありますが、やはり紅葉の美しさにかないません。先日、京都フィルハーモニー室内合奏団の皆さんの素晴らしい演奏、歌声に子どもたちも、本物の音に触れることで心も豊かになり興味を持ったことと思います。弦楽器、木管楽器、金管楽器とそれぞれに響きが違い、初めて見る楽器を見たり体育館に響く音色を聞いたりして感動しました。

子どもたちの感想は、「ほうきにマウスピースをつけてほうきに抜け穴がなかったのに音が鳴って不思議でした。」「コントラバスを回していてすごかったし、弦をパチンっていい音が鳴っていい感じでした。」「人形の歌では、動きが人形みたいですすごかったです。」「楽器ではヴァイオリンの手が早く動いていたので、どうやったらできるのかなと思いました。」「ぼくは、最後のラデツキー行進曲ではみんなで手をたたいて楽しかったことが心に残っています。」「楽器と合わせて校歌を歌うと、いつもより楽しく歌えました。」といった内容でした。それぞれの心に響いたようです。

「彩」という字を使った慣用句には次のようなものがあります。

『異彩を放つ』・・・際立って優れて見えること。

『光彩を放つ』・・・他よりも優れていて、ひととき目立つさま。「光彩」は美しい輝き。

『精彩を放つ』・・・他と比べて良さが際立っていること。などがあります。

どれも良いことを表現しています。

観客を楽しませる演奏を鑑賞した経験が、加佐中学校文化祭での5・6年生の合唱の発表にもつながったように思います。気持ちのこもった素敵な合唱(マイ・バラード)を発表することができました。先輩である中学生の立派な発表もよい刺激になったことと思います。

葉っぱの色がそれぞれ違ったり、楽器の響きがそれぞれ違ったりするように、人間も自分の色や響きがあるのではないのでしょうか。さらにそれは成長とともに変化していくように思います。紅葉している木々を見ながら、自分自身を見つめ直して自分の色や響きを考えてみるのもおもしろいかもしれません。



11月には人権月間の取組やいじめアンケートを実施していきます。自分について、自分の生き方について考えるよい時期だと思います。各家庭においても、将来について、自分の興味があることについてなどなんでもいいので、子どもたちと話をする機会を持っていただけることを願っています。

校長 中江 浩二

教職員一同